

二年学年だより

No. 4

7月号

令和8年7月1日

203 浦辻規幸・白方譲二

「広い視野」

広い視野を持つということは、心に一つ窓を開くようなものだと思います。閉ざされた部屋に光が差し込むと、見慣れた景色が少し違って見えるように、視野が広がると日々の出来事も新しい表情を見せてくれます。失敗だと感じた出来事も、別の角度から見れば創造的な学びの機会へと変わり、誰かの言葉が心に引っかかったときでも、その人の背景や状況を想像することで、受け止め方は穏やかに変化していきます。こうした小さな気づきの積み重ねこそが、創造性と他者理解の双方を支える広い視野につながるのだと思います。

創造性とは、新しいアイデアを生み出す能力だけでなく、他分野の知識を組み合わせたり、知識を適切な場面に応用したりする力でもあります。そのためには、一つの視点に固定されず、複数の視点を行き来できる柔軟さが不可欠です。広い視野はまさにその柔軟さを支える土台であり、視点の切り替えを可能にする「心の可動域」を広げてくれます。

また、広い視野は相手を尊重する姿勢とも深く関わっています。価値観の違いに出会ったとき、「どうしてそう思うのだろう」と立ち止まることで、相手の言葉の裏にある事情や感情に気づきやすくなります。

裏を見せ 表を見せて 散るもみじ 良寛

この歌は、人には表に見える側面だけでなく、裏側に潜む思いや事情があることを示しているのだと思います。広い視野を持つことで、表に見える姿だけで判断せず、その裏側にある事情や感情にまで思いを寄せることが、相手を尊重する姿勢につながるのではないのでしょうか。

では、その視野はどこから生まれるのでしょうか。私は、特別な経験ではなく、日常の中にある小さな気づきの積み重ねこそが、その土台になると感じています。たとえば、本を読んで新しい価値観に触れることや、心がざわついたときに「何か事情があったのかもしれない」と相手の立場になって考えてみることなど、些細な行動です。しかし、これらを継続することで、視野を広げる練習になると思います。今後も、日々の中に潜む小さな気づきを大切にしながら、視野をゆっくりと広げていってほしいです。

(203 担任)

「私の失敗談」

「ながら運転はやめましょう！」という私も高校時代、部活動の帰り道にジュースを飲みながら自転車を運転していて交通事故を起こしたことがありました。チームメイト3人で道路左端を1列で帰っていたのはよかったのですが、缶ジュース片手に前方不注意となり、前を見た時にはおじいさんがそこにいました。急ブレーキをしても間に合わず、そのまま後ろからぶつかりおじいさんは前方にすごい勢いで倒れました。すぐに路肩に運び、安静にして救急車を呼びました。幸い命には別条がなく大事に至りませんでしたが、被害者や身の回りの人に多大な迷惑をかけてしまいました。もし打ちどころが悪かったり、車道の方に倒れたりしたら大変なことになっていたかと思うと非常に軽率な行動をとってしまったと後悔の念に襲われました。「ながら運転」も様々なケースが考えられます。事故は気を付けていても起きることがありますが、ルールとマナーを守って安全に登下校してください。

「3足セット!？」次は最近の話ですが、休みの日にある衣服店に靴下を買いに行き、3足セットのお買い得品を購入しました。そして家に帰って確認したところ、なぜか5本しかありませんでした。3足セットなら普通6本入っているはずなのに何度見ても5本しかありません。失敗しました。買い物する時は、しっかり確認しましょう！

(203 副担任)